

〔(公) 病虫害防除試験 (農林水産部食料安全課所管)〕

アフリカマイマイによる農業被害の抑制方法の検討

～父島および母島におけるアフリカマイマイの分布 (第 17 回全島調査結果) ～

佐々木愛・宮地尚樹・蜷木朋子・村田崇真・北山朋裕*・直井 樹*

(小笠原農セ・*営農研修所)

【要 約】 今回の調査では、父島、母島とも生貝発見地点数、生貝密度は前回よりも減少し、父島については生貝は発見されなかった。

【目 的】

アフリカマイマイ (以下マイマイ) は植物防疫法で有害動物に指定されており、父島および母島における本種の発生分布などを 1985 年以降 2～4 年ごと (2004 年以降は 2 年ごと) に調査してきた。本調査では引き続き本種の分布、生貝密度および蔵卵率を調査し、長期的な変動を明らかにすることで、今後の防除対策の基礎的知見とする。

【方 法】

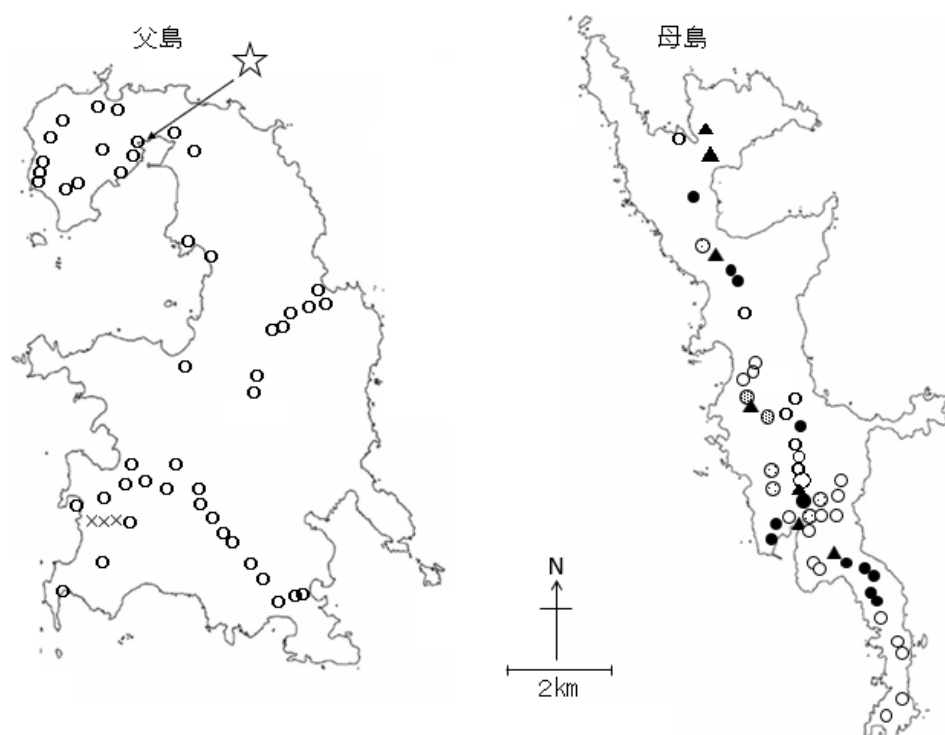
調査は父島 (2024 年 5 月 21～22 日)、母島 (同年 5 月 15～17 日) の定点にて行った。定点は父島 46 地点、母島 50 地点の計 96 地点とした。父島の調査地点については、立入りが危険となった 3 地点を調査対象外とし、近年急激な個体数の増加が見られた 1 地点を追加した (図 1)。調査方法は、調査員 3～5 名の延べ 15 分の時間単位採集法とし、各調査地点のマイマイの発見効率 (個体/分: 近似的に生貝密度とする) を調査した。各調査地点で採集された個体のうち殻高 30mm 以上のものは卵の有無を確認し蔵卵個体率を調査した。

【成果の概要】

1. 父島の降水量 (アメダス) は調査前 1 週間平均 0.3mm、母島の降水量は調査前 1 週間平均 0.1 mm だった。
2. 生貝発見地点は父島では 0 地点となり、調査開始から初めて生貝が見つからなかった (図 1, 図 2)。母島では前回より 2 地点減って 26 地点となり、発見地点率は 52.0% だった。
3. 生貝密度で父島では 0 個体/分となり、母島でも前回より 0.14 個体/分減少して 0.20 個体/分となった (図 3)。
4. 蔵卵率は父島では生貝発見がなくデータなしとなった。母島では 2.7% となり、前回と比べて減少した (図 4)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 両島とも生貝発見地点数、生貝密度は減少した。両島とも調査実施前の降雨は極めて少なく、マイマイの活動が抑制され発見効率の低下につながったと考えられる。
2. 今回の調査では父島で生貝が発見されなかったが、降水量が回復すると活動しているマイマイが確認された。今後も継続して全島調査を行い分布密度の変化を注視する必要がある。



凡例

○ : 0 ▲ : $0 < \sim \leq 0.1$ ● : $0.1 < \sim \leq 0.5$ ● : $0.5 < \sim \leq 1$ ● : $1 < \sim \leq 2$ ● : $2 < \sim$
 ☆ : 追加した地点 × : 対象外とした地点

図1 父島と母島におけるアフリカマイマイの各調査地点での生貝密度（個体/分）

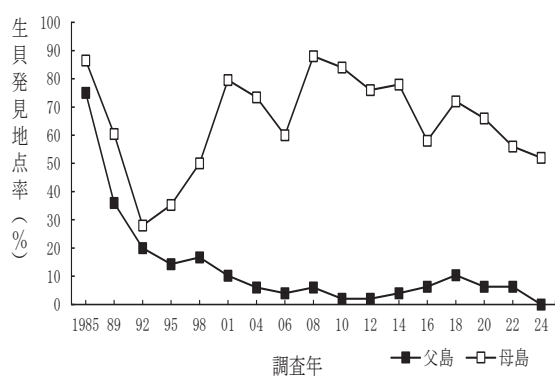


図2 アフリカマイマイ生貝発見地点率の推移（1985～2024年）

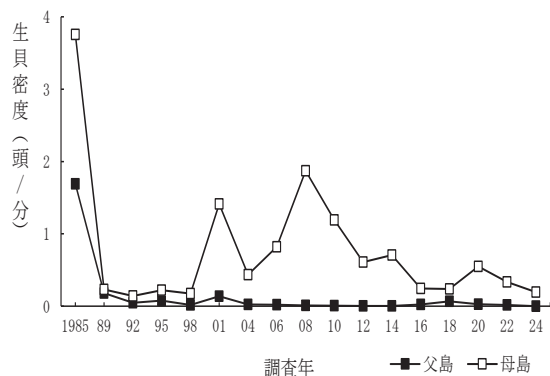


図3 アフリカマイマイ生貝密度の推移（1985～2024年）

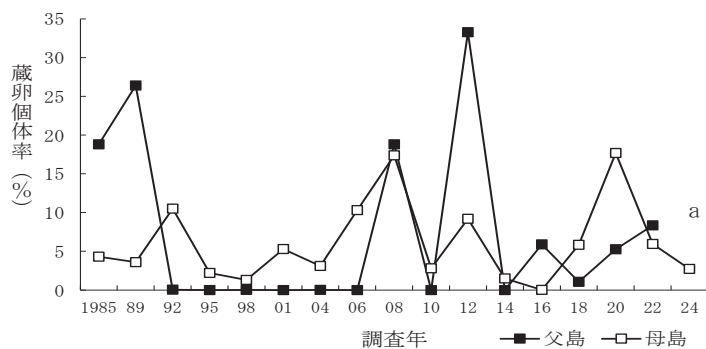


図4 アフリカマイマイ蔵卵率の推移（1985～2024年）

a) 2024年については生貝発見がなかったためデータなし